

より良く生きる ― 出居清太郎先生の世界 ― 第22回

山本博也

(1) 親は子の、子は親の

― 青年たちは就職先を、少年たちは受験する高校・大学を決める頃です。本人や親が、人生の岐路で方向を決める時の心構えをお話してください。

出居 まず親はね、本人の希望を聞いてあげる。息子さんが商社に行きたいと言うのならその心におまかせすればよい。― 親は、子どもはまだ世間を知らないからと心配します。

出居 それはわが子だという“我”（が）

があるからです。子どもは神の子ですから、神の子の心におまかせするのです。

― それでは立場をかえて、子の方、本人は親たちの言葉に煩わされず、自分の心に聞けばよいのですね。

出居 子はまず親の言葉を聞くのです。― 親には子の心におまかせしなさいと言い、子には親の言葉を聞けとおっしゃると、矛盾しやしませんか。

出居 理屈で考えるから矛盾するのです。親も子も神の子です。親は子の心におまかせする、これは神の子として尊重することです。子も親の言葉は素直に聞いて親を尊ぶ。神の子と神の子が尊重し合っ

て、話し合つて決める。そうすれば間違
いがありません。

(2) 正しいとは

正しい心とは我のみの正しさではな
りません。お互い同士が協力和合して、
己を虚しくした心をもって実行するこ
とが正しいのであります。

(出居清太郎先生の言葉から)

お互いが、相手に言い勝つて自分の主
張を通そうとすれば、いくら話し合つて
もいつまでも平行線でしょう。しかし、
親は「子の心にまかせよう」と思い、子
は「親の言うことを聞こう」と思つて話
し合えば、おのずからいい結論に至れる
のではないでしょうか。そうして話し合
つて出した結論であれば、二人の間にし
こりが残るといふことはありません。

あるいは、一人がもともと主張してい
た道とは別の新しい道が発見されるか
もしれません。そして、それこそが正し
い道だったということになるでしょう。

(3) 正しいとは丸い心になること

あなたは自分のやっていることは正し
いと思つていたでしょう、それは常識で
考えれば正しい。しかし神の道での正し
いということとは、丸い心になることです。
この心でいけばどこまで行つても突き当
たることもなく、人様にいやな思いをさ
せることもなく、自分も気持ちよく過ご
すことができるのです。

(4) 正しいとは丸い平和なもの

人は正直であり、清らかであることを
正しいと思つていますが、正しいといふ
ことは丸い平和な日月のようなものであ



キジ 大西 恵

ります。それを正直であるように、ソロバンではじくような、物差しやはかりで計るような、すなわち科学的に寸分の狂いのないことだけが正しいと考えている人が多いのであります。

(5) いやだなあと思って掃除をする、またかと思つて仕事をする

私たちは一日のうちでも、知らず知らずに、"さかしま心"で行なつていくことがどれほどあるか知れませんか。いやだなあと思つて掃除をする、またかと思つて仕事をする、身体

は動いておりますが、心の中は"さかしま心"の種があります。ですから行き詰まる。

(出居清太郎先生の言葉から)

私たちは何か問題に出合うと、何が正しい解決策かと考えます。そして簡単には正しい答えが見つからない難問にもしばしば出合います。人間関係のことであつたり、自分のおかれた境遇のことであつたり…。

そんなとき、「正しさとは丸い心」ということが大きなヒントになります。

仕事や掃除に対して、いやだなあ、またか、と思う心は尖つた心でしょう。丸い心とは、困難や苦境や誰かを、非難したり、拒否したりしないで、やさしく、あたたかく受け入れる心だと思ひます。

その心で人や物事に対応していく中で、正しい解決策が見えてくる、あるいは自然に難問が解決していく、というものではないでしょうか。

正しい答えは、問題集の解答欄のようなどこか別のところに、あらかじめ用意されているといったものではなくて、自分が丸い心でおこなっていくところに見い出されるものなのでしょう。そうして問題が解決されたときには、その問題の原因となったことがらもおのずと解消されていることでしょう。

一つのエピソード。昭和初期、先生壮年の頃。Hさんが先生にすがってきた。

「私は病気の問屋で、一人の息子も病弱。絶望のどん底です、お助けください」と。

先生は次の日の夜、その家に行き、今日から百十日間、毎日この時間にここで浄会を開くと宣言した。Hさんには、損得を忘れて、集まった方に煎餅の一枚でも差し上げ、真心こめてお茶をお出しするようにと言い、時には実演しながら指導した。：百十日：、Hさんが「神経痛で動かなかった手が動くようになりました。他にいくつもあつた病気もすべてよくなりました」とおいおい泣きながら報告した。Hさんにとっての正解は、薬でも治療でもなく、丸い心でお茶を出すという行いであり、それによって病気が消えたとともに、おそらくは諸病の種となっていた尖った心も改善されたのでしよう。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1
 修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>